

管理番号	検査項目	掲載日
1-B-4	巻上機綱車溝の摩耗状態の判定基準（小荷物専用昇降機）	2022-8-1

1. 適用

表 1、2 に示す巻上機に適用します。一部の巻上機には綱車溝にインサートリングを使用した物があるため、検査の際は綱車溝の構造も確認ください。

表 1. 適用表

巻上機型式	ロープ径 : D [mm]	巻上機型式	ロープ径 : D [mm]
KD-45 シリーズ	φ6, φ6.3	KD-100	φ8
TMD-50		KD-140 シリーズ	
TMD-100 ※		TMD-100 ※	
SK-50		TMD-200	
SK-100		TMD-300	
MH50		SK-200	
MH100		SK-300	
MN50		MH200	
F3SJ-25		MH300	
F3SJ-30	KSD150		
	φ6		

※TMD-100 はロープ径φ6 およびφ8 両方の型式がある。

表 2. 適用表（インサートリング溝を使用した巻上機）

巻上機型式	ロープ径 : D [mm]	巻上機型式	ロープ径 : D [mm]
KD-45 シリーズ	φ6, φ6.3	KD-100	φ8
TMD-100 ※	φ6	KD-140 シリーズ	
		TMD-100 ※	
		TMD-200	
		TMD-300	

※TMD-100 はロープ径φ6 およびφ8 両方の型式がある。

2. 検査方法

綱車の各溝に対して、3. 判定基準にある寸法を測定し判定を行ってください。

管理番号	検査項目	掲載日
1-B-4	巻上機綱車溝の摩耗状態の判定基準（小荷物専用昇降機）	2022-8-1

3. 判定基準

3.1 KDタイプ、TMDタイプ

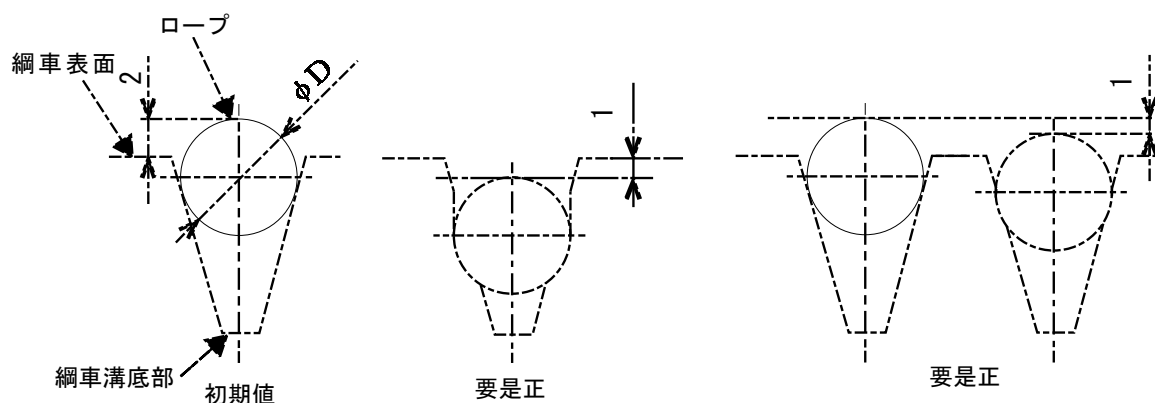


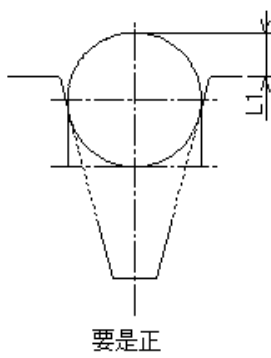
図1. 綱車の磨耗限界

図2. 綱車溝間の磨耗差1

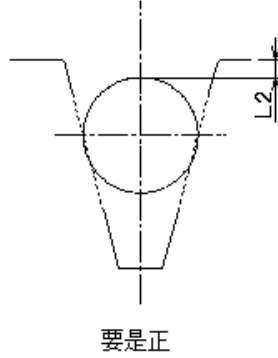
- (1) 綱車表面よりロープが1[mm]以上の下がる場合、要是正となります。(図1)
- (2) 前回までの点検データから次回点検時に要是正の範囲になると予想される場合は保全のため交換が必要です。
- (3) 各ロープ溝間の磨耗に1[mm]以上の差がある場合は、ロープ径に関係なく交換が必要です。(図2)

管理番号	検査項目	掲載日
1-B-4	巻上機綱車溝の摩耗状態の判定基準（小荷物専用昇降機）	2022-8-1

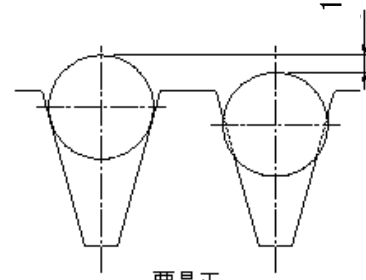
3. 2 SKタイプ、MHタイプ、MNタイプ、F3SJタイプ、KSDタイプ、



要是正



要是正



要是正

図 3. 綱車の摩耗限界 2

図 4. 綱車溝間の摩耗差 2

表 3. 判定基準

巻上機型式	ロープ径 [mm]	L 1 (要是正) [mm]	巻上機型式	ロープ径 [mm]	L 2 (要是正) [mm]
SK-50	φ 6	0	MN50	φ 6	2
	φ 6.3	0		φ 6.3	2
SK-100	φ 6	0	MH50	φ 6	2
	φ 6.3	0		φ 6.3	2
SK-200	φ 8	1	MH100	φ 6	2
SK-300	φ 8	1		φ 6.3	2
			MH200	φ 8	3
			MH300	φ 8	3
			F3SJ-25	φ 6	2
			F3SJ-30	φ 6	2
			KSD150	φ 8	2

- (1) L1、L2 の値となった場合、要是正となります。(図 3, 表 3)
- (2) 前回までの点検データから次回点検時に要是正の範囲になると予想される場合は保全のため交換が必要です。
- (3) 各ロープ溝間の摩耗に 1 [mm] 以上の差がある場合は、ロープ径に関係なく交換が必要です。(図 4)

管理番号	検査項目	掲載日
1-B-4	巻上機綱車溝の摩耗状態の判定基準（小荷物専用昇降機）	2022-8-1

3. 3 インサートリング溝：KDタイプ、TMD-100（ロープ径 $\phi 8$ ）、TMD-200、TMD-300

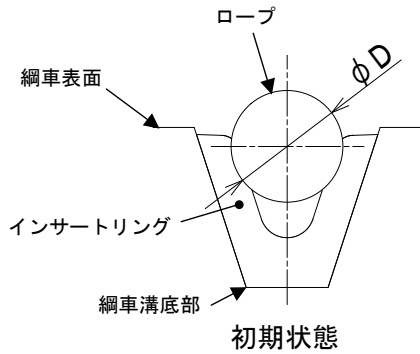
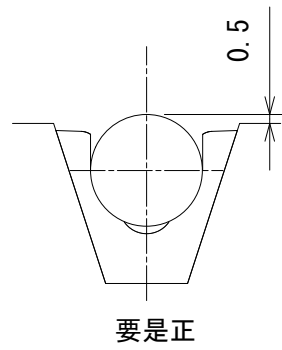
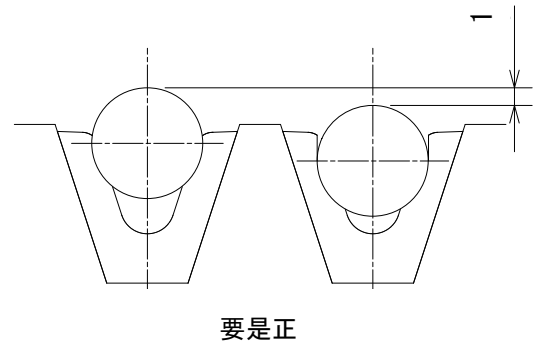


図5. インサートリング溝の摩耗限界1



要是正



要是正

図6. インサートリング溝間の摩耗差1

- (1) 綱車表面からロープ上面までの寸法が0.5[mm]以下の場合、要是正となります。(図5)
- (2) 前回までの点検データから次回点検時に要是正の範囲になると予想される場合は保全のため交換が必要です。
- (3) 各ロープ溝間の摩耗に1[mm]以上の差がある場合は、ロープ径に関係なく交換が必要です。(図6)

3. 4 インサートリング溝：TMD-100（ロープ径 $\phi 6$ ）

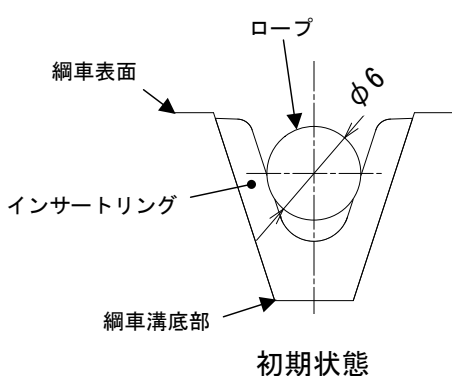
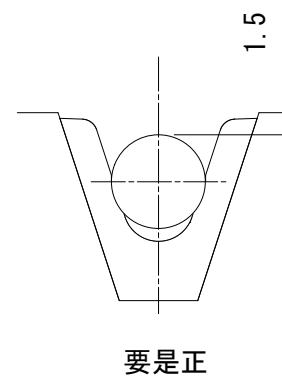
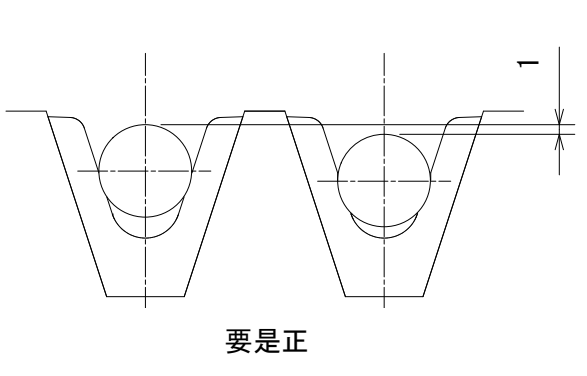


図7. インサートリング溝の摩耗限界2



要是正



要是正

図8. インサートリング溝間の摩耗差2

- (1) 綱車表面からロープ上面までの寸法が1.5[mm]以上の場合、要是正となります。(図7)
- (2) 前回までの点検データから次回点検時に要是正の範囲になると予想される場合は保全のため交換が必要です。
- (3) 各ロープ溝間の摩耗に1[mm]以上の差がある場合は、ロープ径に関係なく交換が必要です。(図8)